

2019年9月号

9月15日(日)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 276



かじられても かじられても…

今年はミズナラの実なりがよいようで、たわわなドングリが見られます。しかしながら地面に近いところでは、エゾシカの食害が目立っていました。エゾリンドウは年々見かける機会が減り、花の咲く前にぱっくりと食べられている形跡も。それでも、多少かじられようが、花を咲かせるものも見られます。植物の意地を感じます。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



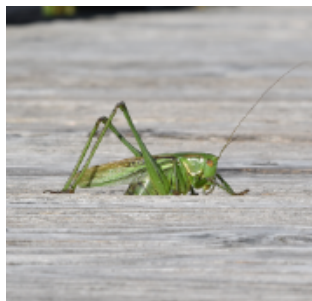
～温根内探勝木道周辺の自然～



【ウメバチソウ】
ニシキギ科 梅鉢草
シーズン最後の花が今年も咲きました。よく見ると虫を引き寄せるための「仮雄しべ」という組織があります。お餅のような蕾も。



【エゾトリカブト】
キンボウゲ科 蝦夷烏兜
猛毒で知られる本種の仲間は、さすがのエゾシカもほぼ手をつけません。色や形など、観察する分にはとても綺麗で面白い花です。



【ハネナガキリギリス】
キリギリス科
メスが木道の隙間に産卵管を刺して卵を産み付けています。湿原で「チョン、ギュー」と鳴いているのはオスです。



【チャミダレアミタケ】
タコウキン科
ハンノキの幹に群生する、多孔菌と呼ばれるキノコ的一种です。今年は雨が多かったせいなのか、特に旺盛に生えているようです。



【トウヌマゼリ】
セリ科 唐沼芹
湿原内に咲くセリ科の花で、小さな花が集まって咲いています。エゾシカが好んで食べ、今年は食害が目立ちました。

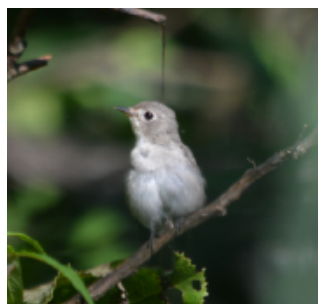


【キアゲハ(幼虫)】
アゲハチョウ科 黄揚羽
セリ科を食草とするチョウの幼虫です。エゾシカに先を越されたのか、もう食べる葉がない茎でたたずんでいました。

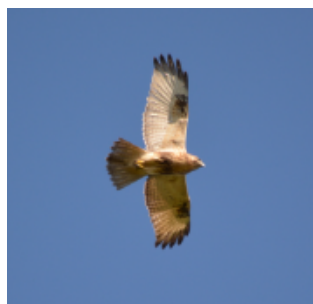
○表紙の写真 上：ミズナラの堅果 中右：エゾリンドウの花 中左：エゾシカに食べられたエゾリンドウ 下：エゾヤマアザミ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

夏鳥たちは次々に南へ飛び立っていく時期になりました。温根内周辺でも幼鳥が時折姿を見せる以外に、夏鳥を見かける機会はめっきり少なくなってきました。それらに代わってカラ類などの留鳥たちが目立ち始めています。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸出しております。お気軽に職員までお申し付けください。



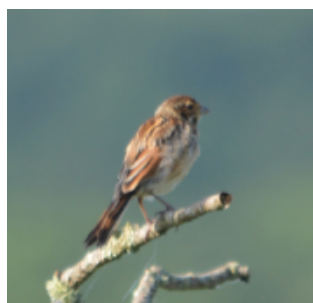
【コサメビタキ】 夏鳥
ヒタキ科 小鯀鰯
クリッとした眼でこちらの様子をうかがっていました。子育て中なのか、近くには幼鳥らしき個体も見られました。



【ノスリ】 留鳥
タカ科 鶯
白い下面が青空に映えます。タカ科の中で比較的よく見かける種で「ピーエー…」と鳴きます。主にネズミ類を捕えます。



【ウグイス（幼鳥）】 夏鳥
ウグイス科 鶯
茂みの中に身を隠し、囀りとはほど遠い「ジャッ、ジャッ」という濁った声で鳴きます。幼鳥は下面がやや黄色味が掛かっています。



【オオジュリン（幼鳥）】 夏鳥
ホオジロ科 大寿林
無事に成長した幼鳥がヨシ湿原を飛び回っていました。秋が深まるにつれ、見かける機会も徐々に少なくなってきました。

○温根内探勝木道周辺で観察された花（8月15日～9月14日）※和名は五十音順 *外来種

■アキノウナギツカミ■アメリカセンダングサ* ■イケマ■イチゲフウロ■イヌタデ■イヌトウバナ■イヌホオズキ■ウド■ウメバチソウ■エソイチゴ■エソイヌゴマ■エソイラクサ■エソオオヤマハコベ■エソゴマナ■エソトリカブト■エソナミキ■エソノコギリソウ■エソノミツモトソウ* ■エソノヨロイグサ■エソヤマアザミ■エソリンドウ■オオダイコンソウ■オオバコ■オオヨモギ■オトギリソウ■カタバミ■カラフトノダイオウ■キオン■キツネノボタン■キツリフネ■キンミズヒキ■クサフジ■クサレダマ■クルマバナ■コウゾリナ■コガネギク■ゴキツル■サラシナショウマ■サワギキョウ■シオガマギク■シロツメクサ* ■セイヨウタンポポ* ■セリ■タカアザミ■タニソバ■タヌキモ■チドリケマン■ツリガネニンジン■ツリフネソウ■トウヌマゼリ■ドクゼリ■ナガボノシロワレモコウ■ナズナ■ノブキ■ハッカ■ハナタデ■ハンゴンソウ■ヒメジョオン* ■ヒヨドリバナ■ヒロハヒルガオ■ヘラバヒメジョオン* ■ホザキシモツケ■ホソバアカバナ■ホソバノヨツバムグラ■ミズ■ミズオトギリ■ミソガワソウ■ミゾソバ■ミツバフウロ■ミツバベンケイソウ■ミツモトソウ■ミミコウモリ■ミミナグサ■ムラサキツメクサ* ■ヤナギタンポポ■ヤブジラミ■ヤブマメ■ヤマハギ■ヤマハハコ■ヨシ■ヨブスマソウ

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（8月15日～9月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

■マガモ■キジバト■アオバト■アオサギ■タンチョウ■クイナ■ハリオアマツバメ■タシギ■ホウロクシギ（9/11温根内初確認）■トビ■オジロワシ■チュウヒ■ノスリ■カワセミ■コゲラ■アカゲラ■クマゲラ■チゴハヤブサ■モズ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■ウグイス■エナガ■エゾムシクイ■センダイムシクイ■メジロ■シマセンニュウ■コヨシキリ■ゴジュウカラ■キバシリ■ノゴマ■ノビタキ■コサメビタキ■キビタキ■オオルリ■ビンズイ■カワラヒワ■ベニマシコ■イカル■アオジ■オオジュリン

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ アルバイト大学生のクモ日記② ☆☆☆☆

こんにちは。今回は湿原によくいる「シロブチサラグモ」についてご紹介したいと思います。このクモは、6月～7月にかけて木道周辺の植物に巣を作っていて頭が黒色、

お腹は黒色に外周が白色で縁取られたような姿をしています。通常は腹面を上に向けて網に止まっています。お腹を見ればすぐにわかるかと思います。観察の季節は過



ぎてしまいましたが、ぜひ来年以降に気にかけていただければと思います。(和田山優輔)

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「アイヌ民族が利用した植物～秋編～」9月8日 参加者：17名



アイヌの人々が利用した秋の植物を観察しながら木道を散策する会を行いました。春編に続き人気を博している本シリーズは今回も応募が殺到しました。講師の奥田氏の引率のもと、鶴居軌道跡から歩き始め、花期の終わったイケマやエゾイラクサ、ヤブマメなど、開始直後からアイヌにまつわる話は尽きませんでした。既に枯れたオニノヤガラやカマエダの茎の前では、アイヌの人たちはその根茎を掘って食べていたという話を伺いました。他にも、各植物に関係した伝承も色々紹介していただきました。話題は植物だけでは終わらず、多くの鳥や哺乳類がアイヌからはカムイ（神）として崇められて

いるというお話も、興味深く聞かせていただきました。最終盤には「雪の鳥」こと、ウパッチリ（エナガ）の群れが現れ、最後まで参加者の目が輝き続けた会となりました。



☆☆☆☆ イベントのご案内（10月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪ザリガニウォッチング2 ～ニホンザリガニ編～

〔日時〕10月6日（日）10：00～12：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

釧路湿原に生息する絶滅危惧種ニホンザリガニの生態を知り、生息環境を観察します。



○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪ムックリ（口琴）を作ろう

〔日時〕10月19日（土）13：00～15：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕¥300（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

♪晩秋の湿原 野鳥観察会

〔日時〕10月26日（土）10：00～12：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕憩の家かや沼 駐車場

～階段工事、進行中～

駐車場からビジターセンターに至る階段を工事中です。新しい階段は10月中に完成の予定です。利用者の皆様には今しばらくご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願い申し上げます。



月刊 温根内通信 No.276

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～17：00（11月～3月は16：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料